

大正三年五月、大津市橋本町松人
藏村田中右方、松原市松の
五名、名緒傳うたふに、叔書、按じ
大津警察局長高金、前長、
任より、井原光一郎、石浦徹夫
及渡瀬隆三、名、馬し、平妻内渡方
ノ原、とらるゝ之を、即刻大津市橋
本町材田多々子、おさきり、因、あやス、
同姓人中、山在、今、人、あはせ、及
系、田市松、同かりし、吾内特務巡査室

[illegible]

於中、山崎ふせう取調つてあり。之に就
 いて、數るに供ひませ、既奇なる事多し。
 いふ三度取り為さず微少なるお探湯
 と云はしむと主り而して今日同様に原
 田市松村田子をらノ妻ヤス及び山
 崎といふ日泊電也とし、中山寺とす
 る一時物移主と留シ置りたるに物移
 心もいふ由甚表ひに初より中山寺とす
 リ賭博、現に犯人と思惟し之ヲ
 監禁し、収容し置曾午前に時分出
 監せしより後、田子ハ有罪自事作

捜査に關係する偶々特務官、店長に
 向ひて石浦、岸上、中山を告げ、
 常し化飛、事、更、自白せし、人
 之、二回、お、事、更、
 上、事、更、
 新、四、賭博、事、更、
 自、自、事、
 工、字、要、視、中、
 警、事、補、及、事、大、人、
 方、也、
 地、裁、し、
 事、
 更、
 下、

青公神

大正四年七月

米
米
米

卷三四三

滋陰丸

美作

新例記事

青古 崇川 近江 新報 楊我 育之 是 譽

アジア経済資料センター
 Japan Center for Asian Studies
 100-8302 Tokyo, Japan
 Tel: 03-3463-3231 Fax: 03-3463-3232
 E-mail: info@asia-center.or.jp
 Web: <http://www.asia-center.or.jp/>



お成

先有^り事^の隠^る承

此^に意見^を先^に細

知^る事^の復^た命^を降^る交

政局^に見^る迄^のなる^{こと}なり

了^る國^の執^行事^のなる^{こと}なり

情^のお^の書^き交^るに

手^の續^く事^のなる^{こと}なり

と^る事^の一^つ決^めり

居^る長^く由^りに^なる^{こと}なり

美^の付^く由^りに^なる^{こと}なり

つ國執をりしをきき

情あお書きあか

手て續も進し一い書き得え果は

とあるとふ一決片断

居長い小由こ己こを合あめ

美府み也え同どう人ひとより始は末まつ

書し提て生せい次じ事じの及および進しん達たつ

尚なほ上うへと良よ何なん年ねんの然しか

成なり事こと以もつ後ごより交かう達たつ事こと終はつ

尚なほ責せ任にん者ものの一人ひとり言こと字じ瓦が

成なり却かへ補ほも退たい職しやく甚し正ただ

るも決けつ定てい文ぶん也なり

居長い小由こ己こを合あめ

星せい也なり

此に一紙の如く

此の如くは

尚書佐史の一人

亦都補も退職せし

るに決意を以て

長官の決意は

其の如く

右の如くは

此の如くは

九月

岩本

安河

海不風波

九

水天

岩花並却春

安石先生集

いまだ、東方西南▲九紫 幸運の日起業▲

何が抽斗に任舞居しものが唯一の証據
物にあらうとは夢にも知らざりあり

さか、聞く處に依れば前記の巡查三名
中何人か其後三郎方に赴き自分が管
日留置場の費を保管せしかば自分以外
る爲水口署に
して立去りぬ

小娘



大
も件のを以て置
ざるにも拘はら
からぬ、何も知
居りしが如く

十銭
 十銭

主なき物故捨與れよと言ひしをお
 花札は全人が全家に引越せし際一
 隅に置ありしを全家の主人に示せ
 覚えかしと答へしに此度は髻に押
 し花札を示して厳しく取調べしも
 花札は全人が全家に引越せし際一
 隅に置ありしを全家の主人に示せ
 主なき物故捨與れよと言ひしをお

や小松警視裁判所の出入は頻繁とあり
不法巡查の處罰を誓ひ内濟せしめんと
連動せしものか本月三日附を以て其頭
目とも目指されたる巡查三名に對し左
の如く處分せり

大津警察署詰巡查 渡瀬 隆
官署の都合に依り退職を命ぜ
金貳圓五拾錢 同巡查 石浦 徹造
金貳圓五拾錢 同巡查 澤田 惠明
職務上不都合に付附書の如く科す
是れ頗る不公平の處分にはあらざるか

得ざる獨特の術あり一かど誇大の言を弄して無知にして信仰深き村民の金錢を巻きのけ居りしが怪しき点多々あるにより刑事等の探知するところとなり遂に正体を現したるが此怪僧は

△去四十二年一月にて審問を受け其後三回結ぶの神は出伏つたものと狛陀如来様とさるとは有難

秋田地方裁判所
後二三回

●佛殿

味

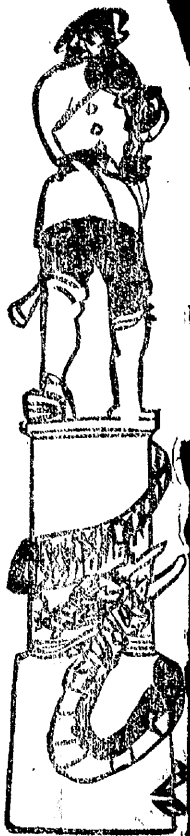
素

中元ちうげんの御贈ごしん

元來贈答品の選擇は至難いものであるのに、殊に御中元は喜の盛りの事とて、子共衆の

格

體裁の誠に



主催 猛獸符實驗談 (一)

於女子師範學校 三石白水氏演

六人の兵士

夫から段々行く頭横にコナナ(手真似で示す)小いさ帽子を付けて居る男がある。お前は何か云ふ。山崎は男一私に些つとも山崎は真似て居る男。此帽子を頭の真中に冠ると、ドンナ天気のいい日でも空は一面曇り。雷は鳴る。雨は降る。雪は降る。冷たい空気がスウ／＼襲ふて来て、人間杯活きて居るのニッソを馬鹿に...

重大犯人を捕ふ

浦生郡中野村字比留田飲食店石田鐵次郎(同)は五日守山警察署の手にて或重大事件の犯人として捕はれたるが目下厳重に取調中。

賊教婦を襲ふ

三百圓の衣類奪はれ残るは行李のみ。東濃井郡上野村字野瀬にては製糸教婦として同郡大郷村字川道より某女三二を雇入しにより其教婦は全村佛光寺派西澤寺の本堂の一部を借り受け宿泊し居るが四日の夜本堂の後戸より窃盗忍入り右教婦が日頃大助に所持し居る行李を盗取したるが該行李中には...

警部巡查無辜の民を不法監禁して亂打す

亭主は留置場内に泣き妻女特務室に拷問さる不法を怒山田検事に告訴。事聊か舊聞に属するも身は常にも人井市に於て初二重傷を負ふ居り相當の民保護の職にある警察官が無辜の民資産を有せし近年著しく輸出羽二重を妻を而も徴々たる非現行の賭博罪により拘引し部下を監督す可警察部に報告せしめ六名が拷問に次ぐに亂打し兩人とも疾病休業數日間を要する打撲傷を負せ、之が爲め無辜の民は憤慨の餘り官権信用、人権尊重の各目下大津地方裁判所に口頭告訴を爲せし重大事件を而も白晝警察部所在地の大津警察署に於て惹起せりとは殆んど信じがたき事なり嗚呼聖代の御代向此事ありとせば吾人々民が憲法の保障あるを余何せん返すくも遺憾千萬のこと。

突然巡査の臨検

福井市毛矢町中村三郎(同)妻お何(同)は昨年七月頃まで郷里福井を待ち居りし處件の巡査は一貫様し處主が物故捨與れよと言ひ...

巡査數名交々毆る

三郎は直に特務室に入れられ傍らに腰刀かけ何事を取調べらるゝかと戰々...

横濱期定糸先物

(昨日) 高 九十七圓九十銭 前場寄九十七圓七十銭 後場寄九十七圓八十銭 低 九十七圓四十銭 大場寄九十七圓八十銭 引九十七圓八十銭

小娘の厭世

浦生郡武佐村字南原の業勇助長女秋原の(同)は内氣を以て他の女の如く快活あらざりしが一日田圃に行き午七時頃歸り家に這入るす何れか由で行きしより隣家の人々を共に捜し居るに全郡平田村字下平木瀬用水用溜池に溺死をかし居るを發見し武佐分署より南部部長醫師と共に山田検視の上死体は實父に引渡さる原因は憂鬱性にて厭世し午後十一時頃前記溜池に身投自殺を遂げし者あり。

藥代を失散

神崎郡八幡村字光寺中林次郎(同)は浦生郡老翁村字原崎より藥代の支拂請求方を依頼せられたる御渡し下さいと稱し神崎郡八幡村大字光寺榮田太郎方に至り藥代を預り先方へ渡して全部償消したる事八日市署の上林巡査に探知され取調の上一件書類のみ三日送られたり。

無屈でお客を

浦生郡武佐村字南原大田田村(同)は谷田巡査に發見せられ山田検視の上取調に於てお灸一圓申付らる。

一組の花札

斯くて一同の遊戯は警察署に...

警部 警部補

斯て三郎は東郷次郎警部の面前にされ椅子に腰を下すや否や傍らに守屋警部補右手を延して此馬鹿三郎の頭をボカ／＼と毆り付...

區かし

いよいよ吉方西南▲九紫 幸運の日起業

んとせしを漸やく細さい

に同情し書記をして

て一同の巡査は特

より次第に言葉柔らかな

内うちに囚こはれの身みどか
知しらぬ存ぞんせぬと叫こゑべ
も世よもわら幸さい徒たらにに
り行くにやと窓外まがひを思おも
立たけり、而しかして此方こなた

を女房と其の事あれば
あらざれば即答出来度
としも堂々たる警部が
話あれば氣の毒あり
しと我家に歸り協議

をやつたらうと糾弾し
女を殴る蹴るの大勢

のあれば熟考の上取
せりとて告訴の取下

付き取下を爲すもの
かいけつ
解決あり

ありとて茲に無

し花札はなぱらを示して嚴くびし

官署の都合に依り退職

日留置場の鍵を保

官せしかば自分以外

●怪僧退治

はらる！

再三報じたる

只怪僧が如と

雷が鳴る、

の苦痛を除去せん

志を立て慈悲心

ぶの神は出いたでたたものものと
 此こ如に來よ様うまま
 るるとは有あ難がた

裏面白紙

見の戦いに討死し、
 殉太郎といふは肥
 の家臣であつて本
 分は輕いが騎勇一
 有名な顧客であ
 杉山重助あどい
 であつた脱藩の後
 本でから長州の高
 天野和州の森
 は入り、殿民部少
 のだが、それが解
 後お市は市川の俠
 られ明治維新後小
 兵隊の横大佑
 七年熊本鎮守の大
 三浦縣で名

素化粧箱入

進早

入國粧化
表價定

金五拾五錢	金八拾錢	金壹圓五錢	金壹圓五拾五錢	金貳圓五錢
-------	------	-------	---------	-------

各地の乾物
 和洋酒類
 食料品店
 等あり



胃腸を害したり又取扱に持て餘すやうな従
 來の習慣的贈答物は絶対に禁物です。處で
 頃日理想的の贈答品として上下一般の家庭
 から大々的の歡迎を受けて居るものと云へ
 は先づ味の素が夫で、暑中の贈答品として
 最も適當した特長を備へて居るのです。

長

實、使つて結
 にする滋養品で

味の素

九月七日

敬告
 返金

明治天皇御即位二十五年、七月七日付
 手紙、金拾五圓、返金、大津市

中山先生、陳述書、其、見、後、檢

省、時、中、名、心、查、亦、之、行、見、後、檢

Q

進呈

入國粧化
表價定

金五拾五錢
金八拾錢
金壹圓五錢
金壹圓五拾五錢
金貳圓五錢

各地の乾物
和洋酒罐詰
食料品店
等におり升



長

にする滋養品を

漢書卷之八

拜讀時金法清輝
 書卷長卷七月初付
 書秋露多三上
 魏王以清報志表是大津書
 客軍之於清溪石浦
 澤田三三
 查々
 賄
 姑
 姪
 精
 去
 中
 山
 在
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜
 對
 之
 凌
 雲
 之
 序
 及
 日
 人
 喜
 小
 仙
 之
 凌
 雲
 之
 中
 之
 國
 之
 豐
 島
 目
 法
 結
 了
 才
 未
 省
 常
 時
 中
 山
 夫
 喜

九月十日

事与部内ニ於テ其陳述ノ旨ニ至ル様子ニ至リ
此方津部告ニ遺書者ニ以テ冬限ニ
振込江蘇省ニ至リ付テ今一進真相内密
非永紀者多ク其司省ニ至リ當時ノ控事ニ
藤岡其方大津市警察署長ノ清沢ニ動カレ
右遺書事件ヲ不起訴案トシ附テ理由ヲ
以テ同入ノ浦亦地方裁事所ニ轉補シタル事
尤メ付同事件ニ關係凡四事及實際遺書
ヲ行ヒタルハ洪元ニ書部補ニ對テ何等ノ制
裁ヲ加ヘシメテ聊權衡ヲ失ハ様田料
不ハ与陳述者之ヲ就テ以テ中出之一進
理由者之様ニ有リ召當時真相証言者及
其印補ニ對テ津監督上ノ注意及津四部

右部ニ至リ
月
日

其親

近ノ事ハ三三番ニ對テ津警察署ノ移居ニ付
右津省ニ於テ稍々輕重ノ失ハ様田料
尚法務省ニ至リ口振ニ至リ大津市警察署長ニ布
同部事ニ付ト權衡上他ニ轉任セラル位ノ事
ハ當然ナル事ニ至リ其理由ニ對シ生ハ開ハ
餘ハ苛酷ナル但ニ當時ノ實情ニ對シ相宜ニ責
任ハ免レタルトナリ其方人々亦會ニ中津